

薬用植物園だより

2026年

4月

関西では果肉、東北では果皮を食す！

アケビ (アケビ科)



Akebia quinata Decaisne

部位	つる性の茎
生薬名	木通 (モクツウ) 日本薬局方収載
成分	アケボシドSt B (トリテルペンサポニン)
薬理	利尿作用、抗炎症作用、抗肥満作用など
薬能	利水薬
漢方	当帰四逆加呉茱萸生姜湯、竜胆瀉肝湯、五淋散など

東アジア原産で、日本、中国、朝鮮半島に分布する蔓性低木。山野でも見られる身近な植物ですが、五枚の葉が付くアケビと大きめの三枚の葉が付くミツバアケビと一緒に自生していることも多くあります。和名は、秋になると実が縦に割れる様子から「開け実 (あけみ)」が由来と言われています。白い果肉は甘くて、そのまま食べることができますが、種が多くて少し食べにくいのが難点です。山形県では果皮を食べる習慣があり、ひき肉などを中に詰め、炒めて食します。ほろ苦い「大人の味」が魅力です。若い頃、恩師の奥様が山形出身で、よくご馳走になりました。漢方では身体に溜まった熱を尿と共に排出する利水薬として知られています。炎症を鎮める作用があるため、尿路感染症などに用いられる五淋散などに配合されています。中国には、全く別の生薬で強い毒性を持つ「関木通」や「川木通」などが流通しており、細心の注意が必要です。

ホソバタイセイ (アブラナ科)

染料と薬用の二刀流！中国では家庭の常備薬

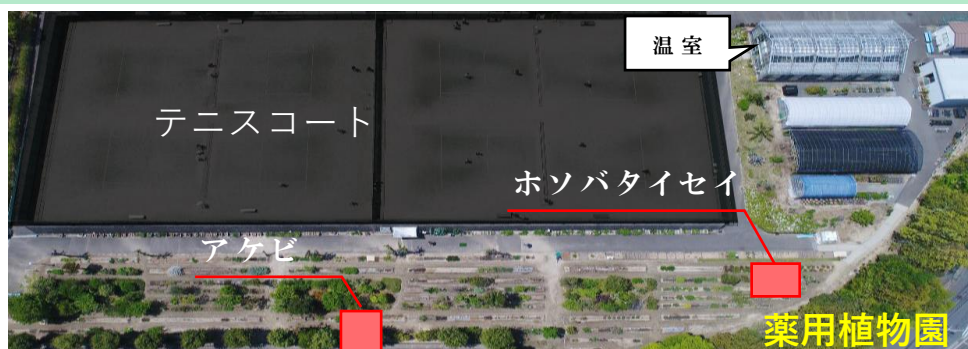
Isatis tinctoria L.

中国薬典では *Isatis indigotica* Fort. が収載

部位	根、葉 共に中国薬典2025に収載
生薬名	根：板藍根 (バンランコン)、葉：大青葉
成分	インジカン、イサタンA-C (インドールアルカロイド)
薬理	抗ウイルス作用、抗菌作用、抗炎症作用
薬能	清熱解毒薬
漢方	日本では漢方薬には配合されない
用途	感冒や咽喉炎のうがい、肝炎の治療、染料 (インディゴ)



中央アジア原産の二年草または短命の多年草。日本では、アイ *Persicaria tinctoria* (Aiton) Spach (タデ科) 由来のインディゴ染料が藍染めなどに利用されますが、12世紀から17世紀のヨーロッパでは本植物からインディゴブルーを製造していました。合成染料が主流の現代において、改めて天然染料への関心が高まっています。それに伴い、インディゴを産生する植物にも注目が集まっています。一方、中国では古くからインフルエンザや喉の痛みにも用いられてきた生薬です。2003年のSARS対策で政府に推奨されたほか、新型コロナウイルスの流行下でも予防や症状緩和に広く利用されました。このように、様々なウイルス感染症に効果を示す薬用植物です。



ホームページでも
ご覧いただけます